

令和4年度第3回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和5年2月8日（水）午前10時～
午前11時25分
場所：犬山市役所 5階 501会議室

◆出席者

市長 原 欣 伸
教育長 滝 誠
教育委員 教育長職務代理者 奥村康祐 委 員 小倉志保 委 員 堀 美鈴
委 員 渡邊智治 委 員 木澤和子

事務局

【経営部】

鈴木経営部長
企画広報課 井出企画広報課長
小枝課長補佐
倉知主査

【教育部】

中村教育部長
長瀬子ども・子育て監
大黒学校教育課長
高木主幹兼指導室長
加藤歴史まちづくり課長
坂野文化スポーツ課長
上原子ども未来課長
伊藤子ども未来課主幹

記録者 企画広報課 倉知主査
傍聴者 0名

◆次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - ・市長の教育への想いと今後の総合教育会議について
 - ・教育大綱の見直しについて
 - ・教育振興基本計画の見直しについて（報告）
 - ・マスクの着用について
- 4 自由討議
- 5 その他
- 6 閉会

◆会議要旨

議題「市長の教育への想いと今後の総合教育会議について」

【主な意見】

(市長の教育への想い)

- ・個人的には、少子化対策ではなくて、子ども・子育て支援の方向に視点を変えなければならないと思っている。子育てする親や子どもたちの当事者目線で、子どもたちを社会全体で育てていくことが必要。
- ・これから子どもたちへの未来の投資、教育で成長支援のあり方を皆さんとともに考えていきたいというふうに思っている。
- ・犬山の教育が抱えてきた学び合いによって、子どもたちは大きく成長していく。そうしたいところをどんどん伸ばしていきたい。
- ・大人はまだ意識に誤解があるところがあるので、子どもと一緒に地獄教育のあり方、大人にも理解いただくこれからのインクルーシブの教育のあり方を考えていかなければならない。
- ・心と想いを育むような、これからの教育のあり方、「犬山が大好きでたまらない」そんな子どもたちを我々は育てていかなければならない。
- ・教育だけではなくて、すべてをつなげることによって、子どもたちの成長、教育の場をみんなで支えて広げていこうという強い想いを持ちながら、これから掲げられた大綱に沿って、子どもたちの教育のあり方を、皆さんとともに考えていきたい。
- ・学校の教育の中身も大事だが、学校のハードそのものもしっかり考えていかなければいけない。
- ・「子どもたちの目が輝いてない」と言われるが、子どもたちのせいではない。「子どもはその時代を映す鏡だ」などと言われるが、まずは我々大人がそうした姿勢を見せることによって子どもたちの教育を考えていくことが一番大切。

(今後の総合教育会議(テーマ))

- ・これから民間のあり方も考えていきたいし、皆さんに投げかけをしていきたい。
- ・学力テスト、体力テストをどう活かしていくべきかということも考えていきたい。
- ・本当に効果的な(1人1台)端末のあり方を皆さんがどう考えているのかも、お聞きをしていきたい。
- ・望ましい教育委員会のあり方、適正数も含めて、いろいろと議論を交わしていきたい。
- ・社会全体で子どもたちを見守っていく、子どもたちを育てていく犬山らしい教育をこれから皆さんと一緒に考えていきたい。

議題「教育大綱の見直しについて」

【意見なし】

議題「教育振興基本計画の見直しについて(報告)」

【意見なし】

議題「マスクの着用について」

【主な意見】

- ・マスクについて、多種多様で構わないと思う。教育委員会としてマスクを外してあげることで、子どもたちが安心して「いいんだね」という立場を示してあげたい。
- ・人の表情が読めないといったことを考えたら、マスクがないほうがいいのかということはあるが、反対に、読めないから助かっている子どもも何人かいると思う。マスクをすれば前を向ける子たちの活動範囲が広がるのであればマスクの力を借りてもいい。いるかいないかと言ったら、いないほうがいいのかと思うが、必要な子もいると思う。
- ・マスクが当たり前になることも時間かかったが、それを解除することも時間がかかるだろう。
- ・例えば風邪を引いたらマスク、給食当番の時にマスクということはあるので、そこの線引きも、もう1回改める。リスクはあるが、ルールとして明文化、大人が範囲を示さないといけない。
- ・卒業式や入学式ということだけを言えば、子どもたちの思い出づくりには、外してあげたい。
- ・マスクがあるせいで、意思疎通ができないということを思うと、マスクは取ったほうがいいのか。
- ・できればコロナ前にどれだけの人がマスクをしていたのか顧みてもらって、だったらなくていいのではないかというふうになっていくといい。
- ・「自由」ってとても親切に思えるが、どこかが「こうしましょう」と言わないと、なかなか進めない。どこかが「外しましょう」と、ちょっと背中押してくれる場所がないと、なかなか実行は難しい。
- ・ほとんどの校長は、マスクなしでやれたらやりたい、という考えを持っている。もう卒業式を外してやろうか。先生たちがまず外す。子どもたちも外したら、保護者も外せばいい。でも、心配な子はつけることを認める。それでどうか。ただし、その他の感染予防対策は引き続きやるとい対応でどうか。
- ・皆が表情を見て、確認をして、卒業式を送ってあげたいという想いがあるので、犬山市の方針として、マスクは原則外していいという方向性を明確に示していきたい。

◆会議録

<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>お待たせしました。おはようございます。 定刻過ぎました。ただいまより、令和4年度第3回犬山市総合教育会議を開催いたします。 開会に合わせて、1点お願いいたします。 本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、公開としています。YouTubeで中継を行っていますことを、ご了承ください。 それでは、原市長からごあいさつを申し上げます。</p>
<p>原市長</p>	<p>はい。皆さん、改めましておはようございます。</p>
<p>全員</p>	<p>おはようございます。</p>
<p>原市長</p>	<p>市長に就任してまだ1ヶ月半です。総合教育会議も初めてでありまして、本当に不慣れなところをお見せするかもしれませんが、少しでも想いだけは伝わるように、お話をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。まずは、何よりも子どもたちのために、教育のために、皆さんには日頃からご尽力、ご指導いただいておりますことに心から感謝申し上げます。言うまでもなく、この総合教育会議は、私が皆さんにお願いして、お集まりをいただいて、その時々々のテーマを定めて、いろいろ議論を重ねてご指導いただくという場であります。今日も非常に重要なテーマも挙げさせていただいておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきながら、また私がこの後、教育への想いと今後の総合教育会議のあり方等についてお話をさせていただきますので、挨拶はこの辺にさせていただきますけれども、中身のある会議にしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日もありがとうございました。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>続きまして、滝教育長、お願いします。</p>
<p>滝教育長</p>	<p>はい。皆様、おはようございます。7月、10月に続いて、今年度3回目、そして今年度最後の総合教育会議でありますけれども、原市長のもとで初めて開催される総合教育会議であります。ご出席お疲れ様です。 今週は、公立高等学校の推薦入試の面接、そして本日合格発表、そして定時制の入試ということで、高校現場も中学校現場も大忙しの週でございます。その関係で多分、高校の校長先生方のご出席ができないのではないかなと思っておりますので、学校現場がそんな状況であるということを承知おきいただきたいなというふうに思っております。 さて、この総合教育会議でありますけれども、犬山の教育政策について、市長と教育委員会と協議を行って、方向性を共有することによって、市長は市長としての役割を、そして教育委員会は教育委員会、それぞれの役割を果たしていくと、これが大きなねらいであります。本日の会は、教育大綱、そして教育振興基本計画についてご協議をいただき、確認をするものであります。これらは、犬山の教育施策を進める上で最も重要な考えを示したものであります。これに基づいて、今後、具体的な取組みが進められていくということになります。会議の中では、原市長の教育に対する想いも聞かせていただけることと思いますし、教育委員の皆様方もそれぞれの教育に対する想いをお持ちでありますので、市長にぜひお伝えをいただいて、犬山の教育の進む方向性の明確化を図っていき、教育施策の展開につなげていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。</p>

<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>以上です。</p> <p>議事に入ります前に本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送らせていただいた資料としまして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・資料1 「犬山市教育大綱案」 ・資料2 「犬山市教育振興基本計画案」 ・参考資料1 「第3次犬山市教育振興基本計画 見直しのポイント」 <p>加えて、本日机の上に用意させていただきました資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日資料1 「犬山市教育大綱案 表紙」 <p>以上となります。</p> <p>資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>これ以降は、運営要綱第3条に基づき、原市長に議事進行をお願いいたします。</p>
<p>原市長</p>	<p>はい。座ったままでいいですか。以降、座ったままで進めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは議題に入らせていただきます。1つ目の議題は、先ほど申し上げました、「市長の教育への想いと今後の総合教育会議について」であります。この件につきましては、皆さんとこうしてお話することも初めてでありますので、私の想い、考え方をお伝えしながら、皆さんと意見交換していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。</p> <p>私自身も先生になりたかった、教員志望でありました。高校野球の監督になりたくて、体育の教員を目指しました。日体大へ進学をします。子どもたちと強いチームではなくて弱いチームで、野球をとことん一緒にやれたらどれだけ楽しいだろう、どれだけ幸せなんだろうという想い、夢を思い描きながら、日体大へ進学しました。でも、挫折をしました。試験を受ける前に、わかしゃち国体、犬山ではソフトボールが開催をされましたけど、わかしゃち国体でもやっぱり開催県として優勝しなければいけないから、大量に体育の先生を採用した後でありました。言い訳がましくなってしまうんですが、200人受けて1人か2人しか受からない時代だったので、教師への道は諦め、政治によって人づくり、教育に関われるこんな幸せな場に就かせていただいています。</p> <p>最初にお話した時に、フィンランドの例えを挙げさせていただきました。私、フィンランドの姿勢というものは、本当に非常に重要なことだと思っています。改めて簡単に申し上げますと、ソ連にすべて依存していたから、独立をする時にフィンランドは岐路に立たされたわけです。それは、自分たちの国がどの道を選ぶかを選択しなければならなかったからです。まさに「どうする家康」と一緒です。「どうするフィンランド」、「どうする犬山市」であります。その時に選んだ道が言うまでもなく、経済のことでもありませんでした。高齢者の皆さんのことでもなかった。外交のことでもありませんでした。子どもたちの未来への投資を選択したわけがあります。それによってどうなったのか。子どもたちに投資することによって、大人が元気になって国が成長する。まさに投資をすることによって、大人も国も大きく変わったというものであります。でもそれは、やはり教育への中身が非常に重要です。ただ投資をすればいいというだけの問題ではありません。教育の内容がその国の成長につながったことは言うまでもありません。</p>

一方で今、日本の議論がどうなのかっていうと、「異次元の少子化対策」なんて言っています。私はすごく違和感があって、個人的なお話を申し上げるのであれば、少子化対策ではなくて、子ども、子育て支援の方向に視点を変えなければならないと思っています。子育てする親さんや子どもたちの当事者目線で、子どもたちを社会全体で育てていくことがこれから求められていくんだ、必要なんだと思っています。ですから、今、「児童手当の所得制限どうするんだ」なんて議論されていますけれど、個人的な意見を申し上げるのであれば、全部その予算を教育の無償化に使えばいいのではないかと個人的には思っています。国会議員の人に会うと言っています。想いが届くことを願いながら、そうした言葉を繰り返し繰り返し、お伝えをしていくのが我々地方政治家、首長の役割だと思っておりますので、そういった想いをもちながら、これから子どもたちへの未来の投資、教育で成長支援のあり方を皆さんとともに考えていきたいというふうに思っています。

それから、私は犬山の子どもたちと初めて関わりだしたのが、20年ぐらい前でした。それが何かって言ったら、特別支援学級の子を普通学級の通級をするためにサポートするボランティアに入ったことから始まりました。あのときにつくづく感じたことがあります。それは何かって言ったら、私たちの頃とは、全く教育が、大きく転換されたということに改めて感じたことです。言うまでもなく、皆さんたち、小倉委員たちはどうなんだろう。私たちは、特別支援教育とは言いませんでした。特殊教育、特殊学級という括りでありました。そこで何が起きたかって言ったら、チャレンジドの子どもたち、障がいの子と一緒になることがなかった、完全に分離されていました。強く申し上げるのであれば、特別支援教育に対して、特殊教育は分離教育だったと思っています。だからよく親御さんが、チャレンジドの子どもさんと子どもが接しようとする、「行っちゃ駄目」ということをたびたび見かけていました。でもそれは、親さんが悪いのではなくて、日本の教育が悪かったんだと思っています。今、申し上げたように、そうした子どもたちと接する機会がないが故に、私たちはどう接していいのかわからないまま育ったからであります。

私がこういった場に携わらせてもらって、そのチャレンジドの子も、もう大人になった子ですけども、全力で走りよって、手を広げて、ハグされるんです。でも私も残念ながら、どう対応していいのかわからず、直立不動でハグされるままでした。それは、日本の教育が分離教育だったという思いと、それと同時に、大きく変わったことによって、今の子どもたちの学びの場も当然大きく変化しています。私たちができなかったことが、当たり前のように、自然にできているということです。その学校現場に入らさしてもらった時に、まさに学び合いができていました。通級で通う子どもたちができないことを、自然に子どもたちが、サポートする様子を見かけて、「自然に身につく道徳なんだなあ」とさえ感じました。だからこうしたことを、もっともっと大切にしていかなければならないし、まさに犬山の教育が抱えてきた学び合いによって、子どもたちは大きく成長していきますから、そういったいいところをどんどん伸ばしていきたいということと、やっぱり我々まだ大人は意識に誤解があるところがあるので、子どもと一緒にこの地域教育のあり方、「親育ち」なんていう言葉がありますけれども、親さんにもご理解いただくようなこれからの当たり前のインクルーシブの教育のあり方を考えていかなければならないというふうに思っています。

もう1つお話を申し上げますと、トルコで大地震が起きました。5,000人の方が亡くなっているという話、ニュース、報道が伝わってきます。その報道を受けて、パッ

と思い出したのが、3.11の後に、テレビのCMって全部同じでした。AC機構のCMがもう毎日毎日流されていました。つまらなかったという思いが変わったんです。大事なメッセージが発信されていると思ったからです。その1つのCMが何かって言うと、何回も何回も見ているうちに自分の意識が変わることになりました。今でも映像とそのフレーズはいつまでも忘れることができません。どんなフレーズだったか。まず映像から言うと、主人公は高校生ぐらいの青年です。まず、電車の中、座席はすべて埋まった車両の中に、おばあちゃんが乗ってきます。そのおばあちゃんに席を譲るかどうかが青年は、迷いながらモジモジしています。すると、女性がおばあちゃんに席を譲って、その青年は「しまった」という表情をします。場面が変わって、今度はおばあちゃんが、両手いっぱい買い物袋を抱えて公園の階段をのぼっています。そこに青年が公園を訪れて、おばあちゃんの横を一旦通り越してしまうのですが、また、おばあちゃんの元に戻って、荷物を一緒に持って階段を駆け上がるシーンでした。そのフレーズが何だったかという、「思いは誰にも見えないけれど、思いやりは見える。心は見えないけれども、心遣いは誰にでも見える。」というフレーズでした。その内容がずっと忘れられなくて、もうまさに我々の政治もそうですし、子どもたちもそうだと思います。やはり心と想いを育むような、これからの教育のあり方、「犬山が大好きでたまんない」そんな子どもたちを我々は育てていかなければならないのだと思っています。だから、皆さんがいろいろ議論してきてくださった教育大綱があり、教育振興基本計画がここまで策定されてきました。まさに「まなぶ つながる つくる」をテーマに掲げてくださっています。言うまでもなく、この場にいるのは教育関係の部署だけではありません。そこに関わるすべての部署、職員、仲間たちがここに集っています。それは教育だけではなくて、すべてをつなげることによって、子どもたちの成長、教育の場をみんなで支えて広げていこうという想いからありますので、そうした強い想いを持ちながら、これから掲げられた大綱に沿って、子どもたちの教育のあり方を、皆さんとともに考えていきたいというふうに思っています。

そしてやはりそうした教育ももちろんであります。つくづく学校のハード、校舎、学校そのものもすごく大切なものだと思います。ちょうど思い返すと3月コロナになりまして、3月2日から一斉休校になりました。そこから5月下旬まで休校が続くこととなります。その時、当たり前ですけれど、学校には誰もいません。学校を通るたびに思いました。学校がなんかすごく寂しそうに見えたし、学校がめちゃくちゃ無表情だったんです。でもそれはなぜかって言ったら、もう当たり前なのだけど、子どもがいないからなんです。学校っていうのは決して大げさな話ではなくて、子どもたちの笑い声や笑顔があって、つぶやきがあって、友達との会話があって、時には涙を流して、それを学校、体育館も同じように吸収をして、子どもたちがいてこそ、学校の表情が変わるんだ、とつくづく思った瞬間であります。だから、学校の教育の中身も大事であります。学校のハードそのものも子どもたちが生活をしていく大切な空間であり、場所、時間でもありますので、そこもしっかり考えていかなければなりません。ですから、これまで通り、もうご承知のように、建て替えを続けてきました。南小学校から次は城東小学校中学校、そしてまた次へ繋がっていくわけでもありますけれども、もうそこに間を置くことはいたしません。もう南小学校が終わったら、その間に計画すべきことは計画をし、終わった翌年から、すぐに校舎の建設に入って、子どもたちの大切な学びの場を作り上げていくという姿勢であります。また、来年度は、古くなった学校もありますので、そ

うした設備補修について、使い勝手がいいような予算編成をしていきますので、そうした子どもたちの学びの場も大切にしていきたいというふうに思っています。

最後に申し上げるのであれば、「子どもたちの目が輝いてない」なんて言います。でもそれは、子どもたちのせいでは当然ありません。我々大人の目が輝いてないのに、子どもたちの目が輝くわけではありません。よく言います。まさに「子どもはその時代を映す鏡だ」なんてことを言われますが、まずは我々大人が、そして学校の先生方、現場が、そして市役所の仲間の皆さんが、そうした姿勢を見せることによって子どもたちの教育を考えていくことが一番大切だと思っていますので、その点を皆さんにお伝えをしながら、これからの教育のあり方、また犬山の教育づくりをご一緒していただければと思っています。

そして、この総合教育会議の進め方、今後についてでありますけれども、今日はマスクの着用について挙げさせていただきました。今後は、それぞれのテーマを持って臨んでいきたいと思っておりますが、まず進め方については、私が問題提起をさせていただき、皆さんからご意見をいただいた後に、私がまとめて考えを述べていくという形をとりたいと思っています。また時には、委員の皆さんの示された考えについて、皆さんで議論をしていく、こうしたやりとりのできるような会議にしていきたいというふうに思っていますので、一人一人の言葉をいただいて私がすぐ返答をするという進行ではなくて、まずは皆さんの意見をすべて受けとめたい、お聞きしたい、そんな想いでこの会議を進めていきますので、よろしく願いをいたします。

それからこれから考えていきたいと思っているテーマについては、渡邊先生がお見えですけども、「民間」です。まさに民間の立場で入ってくださっているのです、これから民間のあり方も考えていきたいし、皆さんに投げかけをしていきたいと思っています。プールもその1つでありますし、また、桃太郎電鉄が、今、教材を作って、「どうぞ使ってください」と、無償で提供をされています。きっと想像するに、桃太郎電鉄ですから日本中鉄道で回りますから、社会・地理の勉強なのかなと思いますけれど、そういった活用も子どもたちが、日頃触れているゲームによって、勉強するきっかけになる、楽しい学びであるならば、そうしたことも考えていくべきだと思っていますし、そうした民間活用のあり方についても、委員の先生方、皆さんにご相談を申し上げていきたいなというふうに思っています。

そして、体力テスト、学力テストであります。これも毎年実施して、検証はされているものの、成績に大きな変動はありません。そこはなぜなのだろうという思いがありましたし、もっともとうまく活用できるあり方があるような気がしてなりません。ですから、この学力テスト、体力テストをどう活かしていくべきかということも考えていきたいと思っています。

そして今、端末を子どもたち1人1台使っていますけれども、効果的な活用と現状の検証を進めてみたいなと思っています。せっかくある端末です。私は道具のひとつだと思っていますので、やはり先生方との対面の教育の大切さはこれまで通り、ずっと大切に続けたいと思っています。でも、子どもたちに有効なものについては、大いに活用をしていく姿勢でありますので、本当に効果的なこの端末のあり方を皆さんがどう考えているのかということも、テーマとしてお聞きをしていきたいというふうに思っています。

また教育委員さんの数についても、これから議論をしていくべきことなのだと思います。教育委員の皆さんですから、これまでの犬山の歴史はご承知だと思いますが、5人から7人に増やしたという様々な背景があって、今の7人体制で教育

	<p>委員会が構成されていますので、本当に望ましい教育委員会のあり方、適正数も含めて、これも皆さんに私の想いを述べながら、いろいろと議論を交わしていけたらなと思っています。</p> <p>まだまだやりたいことはあるのですけれども、今日はこの辺にしときます。様々申し上げてきましたが、何よりも想いは同じであります。犬山の子どものためです。もう一度言いますが、子どもたちに温かくなければ子どもたちは成長しません。ですから、社会全体で子どもたちを見守っていく、子どもたちを育ていく犬山らしい教育をこれから皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞ指導を賜りながら、ご一緒いただきますように改めてお願いを申し上げます。</p> <p>またこの後は、皆さんといろいろ議論を交わしながら、話を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>私の考えは以上であります。また委員の皆さんからご意見等がございましたらよろしく願いいたします。</p> <p>奥村さん、何かございますか。こうやって振るものではない？</p>
奥村委員	はい。何を言えばいいか。
原市長	そうだよ。この想いに対して。
滝教育長	今の市長の想いを聞いていただいて、例えば自分と考えが同じで共感できる部分があるのか、あるいは自分とはこの点が違うとか、その辺を少し自由にお話ししてもらえばいいのではないですか。
原市長	これから進めていきたいテーマについても、「自分はこういったことを考えていきたい」、「こうしたことを皆で議論したらどうだ」という意見でも。
滝教育長	あまりにも市長が熱く語られたものだから。 感想でいいのではないですか。一言、今のお話を聞かされて。
堀委員	私ですか。堀です。よろしく願いします。
原市長	はい。ありがとうございます。よろしく願いします。お久しぶりです。
堀委員	<p>市長が代わられたことで、雰囲気が変わるものだなと。いいとか悪いとかではないです。変わるものだなということがまず、1番先に思ったことです。</p> <p>それから、長くしゃべらないつもりですけれども、子どもが輝くためには、大人も輝かなければいけないという話をされたときに、私がずっと研究のテーマにしている「職員が働きやすい職場」というものがすごく大事な気がします。学校にしろ、保育園にしろ、幼稚園にしろ、市役所にしろ、そこがない限りはやっぱり難しいなという気がします。ひとつはやっぱり子どものためということで、子どもや保護者のほうにどうしても目が行きがちですけれども、さっきそこでも話したのですけれども、基本的には職員を守るところ。守ることも、片方でやっていかないと、やっぱり働きやすい職場にはならないのではないかなというところがひとつあります。</p> <p>それから、さっき市長が障がいのことをおっしゃいました。保育園では、昭和50年に障害児保育が始まりました。その時にやっぱり「障害児保育」という名前でした。その時に2年ぐらい3月の最後のまとめのときに、障害の担当が必ず泣くという、やはり孤独だったんです。そのあとに「統合保育」という名前に変わりました。今のインクルーシブと同じ考え方なのですけれども、学校のほうともつながりながらやっていくということで、非常に良くなってきたなことは思います。</p> <p>ただひとつ、子どもさんの思い、保護者の方の思いというのがやっぱり優先されなければいけないのですけれども、もうひとつは子どもさんがこれから大きくなって</p>

	<p>いく上で、やっぱり何が大事かなっていう、そのところをしっかりと見える機関は非常にいるかなっていうことは思います。</p> <p>はい。以上です。</p>
原市長	<p>はい。ありがとうございます。専門的な立場でご指摘いただきましてありがとうございます。</p> <p>木澤さん。</p>
木澤委員	<p>はい。木澤和子と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>新たにお聞きして、時々お顔を見ることはあっても、きちんとした考えを聞いたりは。親しみやすい方だなと思っていましたけれど。素晴らしいというか、すごいという思いで聞きました。やっぱり障害児、ボランティアのところで、時折お会いすることがあったりするのですが、いろんな立場から、市全体を見ていける方って素晴らしいなと思いました。専門職はすごく大事ですけども、市民でもあり、経営者でもあり、そして、市を引っ張っていくような立場におられるっていうのも、大きな幅での人間性を持って、えらそうなこと言っごめんなさい、そういう立場でこれから関わってくださるのだろうなっていうふうに思いました。</p> <p>障害児とか、でこぼこさんのお母さんたちに、ボランティア相談やっている頃からよくお会いしていました。でも、ここのお母さんや親さんたちの思いになかなか、言葉では言えても、本当のところに入っていったのだろうかってことをとても思います。そして今があるんですけども、やはり親さんたちにとっては、どこまでいっても自分たちの気持ちはわかってもらえないって思いがあるんです。それをどんなふうに、「寄り添う」なんていうかっこいい言葉ではなく、「そうだよね」ではなく、「どうなんだろうな」っていうこと、これからはもっと深掘りすることが必要ではないかなと思います。見ればいろんな情報がいっぱいあって、学ぶことは頭でっかちにはなるんだけど、でも心の中が荒んでいくのは何だろうなっていうことを、ここ何年か思うことがあります。</p> <p>そんなことも含めて、これからご一緒できる時間に、いろいろと検討させてもらえたらありがたいなというふうに思いました。よろしくお願ひします。</p>
原市長	<p>よろしくお願ひします。ありがとうございます。</p> <p>奥村さん。</p>
奥村委員	<p>はい。私からは3点。</p> <p>ひとつは、まず、パソコンについてなのですが、学校の今の授業、市長が先ほど言われました、1人1台端末というふうにされている状況と、今ここで会議をされている中で、ここに今パソコンが誰も置かれていないという状況が、じゃあどうわかるのかっていう。まずそこからもう違うと思うんです。道具として、我々が、大人がどう扱っているのかということから。例えば、今日、田中委員がお休みなんですけど、リモートでやるとか、会議のそういった仕方とかでも、子どもも学校でもこういう現場で使えばいいのではないかとか、そういうようなあり方をやはり、大人がまずこの場で工夫をしていくという部分が非常に大事だなというふうに感じました。</p> <p>それから2点目なのですが、教育委員会のあり方として、お話をされました、5人から7人。その部分では私、前から少しこういった場でお話しさしてもらっていたのですが、教育委員会基本条例の見直しを踏まえて、例えば、我々は教育委員会基本条例の中では、2期8年という、8年に縛られているっていう部分は大きくあるかと思ひます。そういった部分も適正かどうかという部分も踏まえて、あと、教育委員会基本条例をもう一度見直しということによって、我々の意識とかそ</p>

	<p>ういった部分も踏まえて、できたらいいかなというふうに思っております。その時代に合わせて最適化していくという部分です。</p> <p>それと最後に3点目に、先ほど市長が、今のほうがインクルーシブにやってきたということについては、私、全く逆のイメージでして、昔の学校のほうが、1人あたりの先生の教室の人数とか、子どもの人数が非常に多かった、という部分で、昔のほうが私はインクルーシブだったというふうに認識をしています。今のほうが、オルタナティブ教育、いわゆる個別で、逆にそれはそれで、私はいいいというふうにも思っているんです。先生1人に対して、たくさんの人数が、どれだけの子どもの理解ができるかという部分に関しては、やはり人間の能力的にも、非常に難しい部分があると思います。理解ができない部分っていうのは非常にたくさんの能力がある、子どもたちにとって。今は、教員1人当たりの受け持つ人数がどんどんどんどん文科省からも、35人学級になり、次に目指すのは30人学級でありというような話が出ている中では、今のほうが、非常にオルタナティブな教育を目指している。経済産業省が打ち出している、いわゆる「個別最適化」ということについては、非常に私それがいいかなという部分は、非常に感じているんですけども。ただ、大事なのは子どものつながりという、いかにどうつながっていくかという部分が、今からの大きな課題かなというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
原市長	ありがとうございます。小倉委員、お願いします。
小倉委員	<p>話を聞いていて、私の思っていることと、原市長の思っていることは、そんなに変わりがないっていうか、嬉しいなというふうに思いました。</p> <p>子どもたちが育っていく犬山っていうところは、「本当にいいところだよ」って言えるようなまちにしたいなと思いますし、その結果として、子どもがそのように育ってってくれたら嬉しいなと思っています。その中で、枠組みっていうか、いつも私たちはこの大綱を考えたりとか、枠を考えると、すごくいい言葉で、すごくいいものができているんです。これがどのように使われているかというか、それが活用されて、どういうふうになら変わっていったのかっていうところを、いつも自分の子どもを通して見ると、疑問に思うことがあって、どうしたら埋められるのかなとか、いつもそれを思いながらこの大綱を考えていて、「こうだったらいいのになあ」、「ああだったらいいのになあ」という思いを持ちながら取り組んでいます。</p> <p>先生たちは先生たちで、困っていること、こうだったらいいのになんていうこと、それは、学校の中でこうあるべきって決められているから変えられなくて、決められたことをやらないといけないと思って先生らしさが出せないのか、それとも、本当に今あることを守るためだけに授業をされているのか。先生たちの本当の気持ちっていうか、学校を超えて、立場を超えて、先生たちが「こんな子どもを育てたい」という、そこを引き出してあげられたら、もう一歩進めるのではないのかなって。とにかくカリキュラムをこなさないといけない、教科を教えないといけないって、そこで終わらないで、「こんな子どもに育て欲しいな」という、何か先生の土台になるところを、ゆすぶってあげたいなってすごく思っています。</p> <p>障害児教育に関して言ったらまさしく、多分私のほうが年上なので、同じ世代で、その時に高校、大学の際は、障害者施設で働きたいと思っていて、そんなところに行った時に、先生たちに聞いたことは、49年か何かに、障害者の方々、子どもたちに学籍を与えられたっていうことで、そういうふうに分けて教育をされる、「特別支援学校という形で、別に分けて、学校が設けられたことっていうのは、こ</p>

	<p>の子たちになかった学籍が与えられた、居場所が与えられた、とてもいいものなんだよ」っていうふうに、先生たちに聞いては、そうなんだっていうのが、高校生、大学生の頃で、「この子たちにも目を向けてもらえるんだ」って、思っていました。でも時代がどんどん流れていって、いろんな視点で一緒に学べたらいいなっていう時代が変わってきて、そのよかったところっていうのは、例えば、何か困りを抱えている子どもがいても、「私僕やってあげるから」って自然に他の子がカバーをする、それができるようになった子どもたちを見たときに、「それが正解だったんだな」って、やっぱり原市長と同じように思いました。それが当たり前になる世界とか、特別なことではなくて当たり前のことを当たり前にするっていうのがボランティアであるって高校のときに、思ったことなんですけど、「特別ではなくなる時が来たらいいな」っていうふうにごく思っています。</p> <p>以上です。</p>
原市長	ありがとうございます。渡邊委員、よろしくお願いします。
渡邊委員	<p>よろしくお願いします。</p> <p>今、先ほど教育長からも入試の合格発表がこれから続くと言われました。</p>
原市長	お忙しい？
渡邊委員	<p>結局私ら大人が、ちょうどもう27年、今の仕事をやり続けていて、自分でやるのも10年なんですけども、先ほどの市長が話された熱っていうか、やっぱり教える側の熱量によって子どもが変わるっていうのは、いつも思っていること。今もその子どもたちに「しゃべりすぎ」って怒られるんですけど、教えるよりも語ることが多かったり。あとは「営利目的な塾」って思われがちなんですけども私はそうじゃないと思いながら、周りから見たらそう思われるんですけども。それぞれ、塾をされてる方とか学校の先生の方っていうのはやっぱり想いがあって、いつも私が何か迷った時とか、何か喋ろうかなと思って、いつも原点に戻るようにしている。それが何かって言った時に、子どもたちが自分の力で乗り切れるように、だから自分でちゃんと選択をして、自分の力で乗り切れるようにっていうのはもちろん原点で、そのために、褒めることももちろんするし、時には、きつい言葉も出すんですけども。ただいつも私たちは、大人がどうしたいのか、っていう原点。どれほどの熱量でやっていくのか。先ほど、「目を輝かせて」っていうのがあったんですけども、それは本当にその通りだなっていうふうにごく思っています。</p> <p>ちょうど2年ちょっと前に、この委員のお仕事をいただいたときに思ったことは、「何で私がここにいるんだろう」っていうのもそうなんですけど、「いるからには何かしたい。」「何かしたい」ってそんな大きなことではないんですけども、「観光のまち犬山」ってあるんだったら、この前も多分言ったのかもしれないですけど、「住みたくなるまち犬山」っていったときに、「教育」っていうところで何かお手伝いっていうか、何か意見が言えたらなっていうことはいつも思っていること。それは、いろんな思いがあるんですけども、ただ教育大綱にあるように「まなぶ つながる つくる」っていうのがあるんだったら「まなぶ」ところをまずはしっかりと表現をしていき、さらにそれが本当に自分の力になって、選択をし、今後の人生に繋がっていくっていうような捉え方、自分の人生とか人格を作っていくっていうものの、お手伝いしていければなっていうのは、常々思っていますので、よろしくお願いします。</p>
原市長	<p>よろしくお願いします。ありがとうございます。</p> <p>教育長、お話を伺ってどうですか。</p>
滝教育長	はい。ありがとうございます。

	<p>教育委員さんそれぞれの想いを市長に今、聞いていただいたわけですが、定例教でもそうですけれども、いろんな方がいろんなことをおっしゃって、私はどちらかというと、自分と考えの異なる方のご意見をできたら聞きたい。最終的に、例えば教育委員会としての組織決定をしないといけない時にも、自分はこんな見方、考え方しかできなかつたんだけど、こんなことを考えてらっしゃる方もみえるんだという、そういったことをすべて含めた上で最終的にどうするかという決断をしていくことがとても大事だなと思っています。それと、子どもとお年寄りが元気なまちは素敵なまちだと思うんですね。子どもたちとは比較的接する機会があります。お年寄りの方とも昔はあったんです。グラウンドゴルフへ行きますと、原市長が当時は県議で、大体、市長、県議、議長、教育長がいろんな場で顔を合わせることが多くて、そういった場でいろいろな方のお姿を見るんですけども、お年寄りと子どもの元気なまちも素敵だな。だから、ぜひそんなまちに犬山もなって欲しいなということをしています。</p> <p>今日いろんな方がいろんなことをおっしゃったんですけども、奥村委員がおっしゃった端末のことだとか基本条例、インクルーシブについては、今後、こういった場で話題にされていくと思うんですけども、ひとつだけ、いつの時代と比較するかだよ。私たちはやっぱり昔の教育を知っているから、だんだんだんだん変わってきたと思うけれど、奥村委員は私たちが生きている途中でお生まれになられたから、この辺りのことはあまり多分。だからこういったことを含めて皆で議論していく。</p> <p>ただ、ひとつ今日思ったことが、教育に対する熱い想いを、原市長もお持ちであるので、この市長と一緒に犬山の教育を作っていけるということは、大変嬉しいことだな、夢と希望のあることだなということを改めて思いましたので、教育委員会も、市長の想いを心の隅に置きながら、犬山の教育づくりにこれからも頑張っていけたらなと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>原市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>本当にいろんな話をお聞かせいただきました。共通することは、現場の大切さといえますか、当たり前ですけど、現場なくして教育も市役所も成り立たないということを改めて感じることができました。皆さんはそれぞれ学校へ行かれて、現場も確認をされていると思っていますが、私も職員さんと初めて、自分の想いをお伝えしたときに、みんなで現場主義であろうねということをお伝えしました。何か問題やら課題があった時に、解決できるヒントは何があるかって言ったら、やはり現場に行くことだと思っています。ですから、そうした時は、現場に行かなければいけないし、常に現場主義の姿勢、考えでありましようということをお話のひとつに挙げさせていただきました。</p> <p>今日いただいたそれぞれのテーマもご意見も現場にあることだと思っています。ですから、委員の皆さんと一緒に現場を確認しながら、前に進めれるあり方を探っていききたいなと思っています。</p> <p>もうただ想いは一緒に、子どもたちと教育に対する想いの熱量は皆さんと一緒にですので、この先にある子どもたちの姿、犬山の成長だけを見て、これからの教育をテーマに様々な議論をしていきたいと思っています。</p> <p>また、教育長、この会議があると必ず意見交換をしてから会議に臨まれるんですか？</p>
<p>滝教育長</p>	<p>いや、そういうわけではないです。</p>

原市長	そういうわけじゃないんですか。事前にもし集まるときがあるなら、そこに私も仲間に入れてください。どんな話をしているのか聞きたいです。
滝教育長	場合によっては、これは総合教育会議で議論すること、定例教の中で議論するものというものも、時々あるもんですから。事前にこの打ち合わせをすることはほとんどないです。
原市長	ないですか。この間も、入られる前に教育長のお部屋で何かお話をされてからあがってこられて、今日も教育長のお部屋でお話をして、あがって来られたかなど。
滝教育長	いきなりここへお邪魔するのではなくて、みんなそろって行こうねというの教育委員会の絆ですね。
原市長	では、ちょっと先に教育長のお部屋に行けば皆さんにお会いできるんだ。
滝教育長	はい、会えます。
原市長	わかりました。ありがとうございます。 そんな場も大切にしながら、やっぱり普段のおつき合いだし、普段と一緒にどれだけいられるかっていうのはすごく大事なことだと思っています。そうしたこともテーマに掲げながら進めていきたいと思えます。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。では、このテーマについては以上とさせていただきます。ありがとうございました。 それでは、議題の2番目に入らせていただきます。「教育大綱の見直しについて」であります。事務局から説明をします。
事務局 小枝	はい。それでは説明させていただきます。 前回、10月の総合教育会議では、山田前市長から保留となっていた事項について、教育委員会で議論して欲しい旨の発言がありました。そのため、10月の定例教育委員会で取り上げていただきながら、山田前市長とやりとりをして、原案を作成、11月の定例教育委員会で報告させていただいたところです。 その後、原市長に確認をしていただいたものが、本日の資料1となっております。11月に皆様にお見せしたのから、一部変更が発生しておりますのでお伝えいたします。 大綱の裏面の「3. 取組みの方向性」のところになりますが、「まなぶ つながる つくる」について漢字からひらがなに変更しています。これは、以前から「繋がる」については、常用漢字ではないので、ルビを振った方がいいというご意見がありました。もういっそのことすべてひらがなにってしまった方が、見た目にもやわらかくなっていいだろうということで変更したのになっております。内容についての説明は以上となります。 ここからは参考となります。本日、当日資料1をお配りしております。これは、現在作成中の表紙のデザインです。「まなぶ」と「つくる」の順番が逆だなどというところで、ここは順番を入れ替える予定をしております。中身につきましても、市民の人にとって親しみやすいように、表紙に合わせてやわらかいデザインに変更したいと考えておりますが、まだでき上がっていないところなので、表紙のみの情報提供となります。 最後に今後のスケジュールです。本日、皆様による最終確認を経て、2月15日から3月7日までパブリックコメントを実施、年内に完成という予定をしております。 事務局からの説明は以上です。
原市長	ありがとうございました。

	ただいまの説明のとおりであります。ただいまの説明の件につきまして、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。
教育委員	(質問、意見なし)
原市長	<p>よろしいですか。</p> <p>私の考えもいろいろ求められました。でも、これは言うまでもなく、山田前市長と皆さんで、何度も何度も議論して作り上げてくださったものでありますので、この中身については、私は一切触れていません。そうした思いを持っているからです。私のカラーを出させていただくのは、次の大綱の時にはまた自分の想いを込めながら皆さんと一緒に議論をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>ご意見もないようでありますので、本当にここまで完成しつつあることに、皆さんに心から感謝を申し上げます。ここから次はもう市民の皆さんから、いろいろな意見をいただくパブリックコメントのほうに移行をしていきたいと思っておりますが、委員の皆さん、よろしゅうございますか。</p>
奥村委員	一度とっているのではないかな。
原市長	はい。課長。
事務局 井出	市民のご意見をというお話だったので、アンケートという形で市民の方からいただいています。今回は素案を示して、それに対して「皆さんどうですか」というオフィシャルな仕組みでやります。
奥村委員	わかりました。
原市長	それではパブリックコメントの手続きに入らせていただきますので、どうぞよろしくお願いをいたします。教育長、いいですか。
滝教育長	はい、結構です。
原市長	では、よろしくお願いをいたします。
	それでは次の議題に入ります。次は「教育振興基本計画の見直しについて」であります。事務局のほうから説明をお願いします。
事務局 大黒	<p>学校教育課の大黒と申します。よろしくお願いします。</p> <p>資料2「第3次犬山市教育振興基本計画 犬山かがやきプラン案」をご覧ください。青色の表紙のものです。2ページをお願いいたします。</p> <p>下段ですけれども、「3. 計画の位置づけ」でございます。これについては、2ページ、3ページの上段ですけれども、この犬山市教育振興基本計画（犬山かがやきプラン）は、教育基本法に基づきまして、地方公共団体における「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として、犬山市教育大綱のもと、教育に関する施策と具体的な取り組みを定めるものでございます。第6次犬山市総合計画、また、教育大綱に基づきまして、それらを受けまして、第3次となりますこの計画では、重点施策と具体的な取り組みを定めて参ります。</p> <p>「4. 計画の期間」については、令和5年度から令和9年度までの概ね5年間を予定しております。</p> <p>7ページをお願いいたします。こちら第3章ですが、今後5年間の重点施策と具体的な取り組みでございます。こちらについては、現行の4課体制で進めますので大きな変化はございません。また、SDGs、持続可能な開発目標との関係を追記。</p> <p>それから、現状と課題や各課の取り組みの方向性については、別紙参考資料にございます。第3次犬山市教育振興基本計画見直しのコメントにございますので、ご参照ください。</p>

	<p>今後につきましては、総合計画や今の教育大綱の策定後に、パブリックコメントを実施いたしまして、4月に最終案を定例教育委員会にお示しさせていただく形で計画策定を進めて参りたいと思っております。説明は以上です。</p>
原市長	<p>はい。お疲れ様でした。</p> <p>この件につきましては、説明ということですが、この点につきましても委員の皆さんで様々、定例教育委員会のほうで議論が重ねられていますので、今の説明を受けて、何か発言がありましたら是非ともお願いいたします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、今の説明のとおり、以降は進めさせていただきますので、また、様々ご意見を求めさせていただきますので、ぜひお寄せいただきますようお願いをいたします。教育長、いいですかね。</p>
滝教育長	<p>はい、結構です。</p>
原市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次の議題に入らせていただきます。</p> <p>私から挙げさせていただいたのは、「マスクの着用について」であります。</p> <p>もう皆さんご承知の通り、2類から5類に5月8日から移行をされます。個人的には、「なんで5月8日なんだろう」という疑問でいっぱいあります。そして、昨日の報道で、まさにタイミングがぴったりマッチをしたわけですが、私もマスクについてはいろいろな想いを抱いて臨んでいますので、また私の思い、考えは後ほどお話をさせていただきたいと思いますが、政府のほうで卒業式のマスクの着用について、外してもいいという動きに入りました。それで詳細、内容については、これから文科省で示されるということですが、それが報道によると2月下旬という数字が示されていました。2月下旬なんてもう卒業式すぐ間近に迫った時点で、対応をされる学校現場の先生方が大変なことになっていると思います。ですから、マスクのあり方について今回は挙げさせていただきました。この根底にあるのは、これも子どもたちのためであります。</p> <p>先ほどお話を申し上げたように、この春卒業する子どもたちは、3年間ずっとマスクをつけて、学校生活を送ってきた子どもたちであります。その最後の卒業式を迎えるわけがあります。その卒業式のマスク着用について、こうした政府の動きも含めて、どうお考えになるのかということと、5月8日から2類から5類に移行するにあたって、これも子どもの成長に影響があるというお医者さん、専門家もおみえになりますし、私も犬山の子どもを診ておみえになる先生にお尋ねをしました。やはり、「影響はあると思う」というふうに言われていました。政府は、一人ひとりに任せるなんて、無責任なことを言っていますが、それもおかしな話だと個人的には思っています。ですから、今日はそうしたことも含めて、マスクをテーマに掲げさせていただきましたので、どうぞ委員の皆さんの思いや考えを、お聞かせいただければと思っていますので、よろしくお祈りを申し上げます。</p>
奥村委員	<p>マスクについてなんですけど、やはりどうしてもマスクをしたくないっていう子もいれば、コロナになる前からマスクをしている、外したくないっていう子もいたりして、これはもう多種多様で私は別に構わないと思います。</p> <p>ただ、やはり弱い立場の子、言いたくても言えないとか、そういった子のために、私はしてあげたいなというような思いがあります。例えば、卒業式とかで見ていると、立っていて貧血で倒れてしまう子が必ず1人、2人いたりするんです。そういった子たちがマスクしていたら、余計に息ができなかったりするんで、そういった部分では、やはりマスクは着用しなくてもいいというようなふうで。教育委員</p>

	<p>会の立場としてマスクを外してあげることで、子どもたちが安心して、「いいんだね」というような立場を示してあげたいなというふうに私の想いとしては思うのですが、その辺りが教育委員会としての皆さんの意見をちょっといろいろ伺いたいなというふうに思っております。</p> <p>ただひとつだけちょっと気になる点が、コロナではなく、急にインフルエンザが非常に流行ってきているという部分も踏まえて、ちょっと複雑な思いではあるんですけども。やはり外したいという子のために外してあげるっていう姿勢っていうのは、私は大事なかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
原市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>小倉委員。</p>
小倉委員	<p>ちょっと私自身、整理しきれないんですけど。まずマスクを外したほうがいいっていうところからいくと、人の表情っていうのが読みきれなくて、読めないから、上手く人間関係がいきそうなところもいかなかったりとか、そういうところから考えたら、マスクがないほうがいいなっていうのはあるんですけど、反対に、読まれないから助かっているっていう子どもも何人かいるんだらうなっていうのがあって、いつもだったら下を見ている子が、マスクをすれば前を向ける子も中にはいるわけで、その子たちがマスクを補助具として使って、何か活動範囲が広がるんだらうら、マスクの力を借りてもいいなっていう気持ちも少しあります。</p> <p>子どもの話からいくと、もうマスクをつけるのが当たり前になりすぎちゃって、苦しいとか苦しくないとかはもう関係なく、マスクで隠したいみたいな気持ちがある、生まれていて、それが問題なんですけど、そんなふうな様子で「マスクは絶対外さない」という、なんかそんなふうに言っていましたけど、それを「マスクなんかいらんのだよ」というところにまた、すごい時間がかかるだらうなって。マスクが当たり前になるのも時間かかったけど、それを解除してあげるのにも、心のマスクを取ってあげるのも、時間かかるんだらうなっていうふうに考えています。</p> <p>私自身いるかいないかって言ったら、いないほうがいいなっていうふうには思いますけど、必要な子もいるなっていうことは思います。</p> <p>以上です。</p>
原市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>渡邊委員。</p>
渡邊委員	<p>この前、ホームページの作成のために、子どもたちの授業の写真を撮ろうということで、「マスクを取って」と言ったら、誰も取ろうとしない。「10秒だけ。窓全開にするから10秒だけ取って」と言ったら何とか。本当に10秒経ったらすぐつけ始める。っていうふうに、子どもたちの意識の中では、学校現場でも多分「登下校中とか取ってもいいよ」というふうに言われていても……。その程度ではなくて、取るならもう全力で取っていいですよっていうふうに多分言わないと、なかなかこの壁はクリアできないかなっていうのは、ちょっと感覚としては思っています。</p> <p>ただ、これはコロナとかインフルエンザより以前に、例えば風邪を引いたらマスクとか、例えば給食の当番の時にマスクっていうのはあるので、そこの区別というか線引きとかも、もう1回改めて。例えば中学生ってマスクしたまま入学して卒業してしまう。例えば小学生の子も、例えば1年生の子だったら、マスクをしてるのが当たり前っていうところで、あまり好きではないんですけど、やっぱりその</p>

	<p>ルールとして明文化してあげる。リスクはもちろんあるんですけど、大人が範囲を示さないといけない。</p> <p>ただ、どうしても今度教える側の立場に立つと、やっぱり仕事柄というか、「しておいたほうがいいんだな」っていうふうにも思うこともあり、子どもたちは外させるけど自分たちは多分つけたまんまっていうふうにはなるかもしれないんですけども。その辺の合図っていうのはバシッとみんなに示したほうが。この場合はつける、この場合はつけないっていう、線引きでもいいとは思いますが、何かやっぱりあった方がいい。あと個人的に思っているのは、正直、子どもの顔を最近見てない。目しか見てなくて、時々マスク取ってお茶を飲む姿を見ると、こんな顔しとったんやっていうのは、もう本当この3年思っています。</p> <p>あとは、男の子、女の子もそうなんですけど、すごく増えたなと思うのは、すごいニキビとか吹き出物がすごく男の子たち女の子たちも増えたな。それを隠すためにし続けているような子も、ちょっと以前にないぐらいみられるかなという。</p> <p>外すか外さないかって言ったら、卒業式っていうとこだけを言えばやっぱり子どもたちの思い出づくりには、入学式とか、はやっぱり、外してあげたいなという想いがあります。以上です。</p>
原市長	ありがとうございました。堀委員。
堀委員	<p>例えば今、市長がそうやってマスクを外して話をされたら、もっといろんなことわかりますよね。ちょっと取ってみてください。こうやって話されて、かっこいいとか、もっといろんなことわかりますよね、しゃべること以上のこと。特に小さい子なんか今もうマスク取っていますけれども、マスクがあるせいで本当に意思疎通ができずに、目だけでっていうことを思うと、もちろんマスクは取ったほうがいい。それこそ卒業式でも取ったほうがいいと思います。</p> <p>ただ、3年かかってマスクしないといけないって言っときながら、取るのには、やっぱりさっき小倉委員が言われたように、心のマスク、これあるとちょっとね、化粧だって、「こうやればいいや」みたいな。なんかすごい、これで安心するっていうのから、解き放たれるっていうのは、もしかしたら時間がかかるかもしれないし、渡邊委員が、教員のほうはマスクしとかないかんっておっしゃったけど、本当は教える側は、マスクとって話さないといけないと思うんです、子どもはマスクしていても。それがやっぱり伝わらないっていうのが、このマスクの苦しさだけれども、何となく取ったほうがいいには決まっていますけれども、心のマスクっていうのがあるのかなというふうに私も思います。</p>
原市長	ありがとうございます。木澤委員、お願いします。
木澤委員	<p>私が委員になって私3年なんですけど、もうマスクをしていました。だから本当に不安でした。どなたもわからない。何を言っているかわからない、場所へ行くことさえわからない。</p> <p>だからその思いがあって、お母さんとか子どもさんと接するときに、そういう目でどうしても見てしまうんですが、学校へ行って、授業参観しても、本当にあなたたちってわかっているんだろうかって、ついそっこのほうに目が行きます。「ふんふん。」って言うことで、わかったと捉えているのか。今おっしゃったように、マスクを外すことで表情でわかっているのかわからないのかとか、先生になるような人は皆、見渡せばわかると思うのですが、同じようにマスクをしていたら、みんなマスク美人というそうですが、それで終わってしまう。そんな時代がずっと続いてきた。</p>

	<p>この間も1人のお母さんと話していたら、お子さんが小学生だったんだけど、自分が一人っ子でありあまり接していなかった。子どもがこれから学校で、お母さんたちと出会えるのかなと思ったら、授業参観もない。何もないので、全く不安で、親が不安だから子どもは不安でとうとう、それだけではないかもしれないけど、不登校が始まった。無理もないなと思いました。</p> <p>できればコロナ前、どれだけの人がマスクをしていたか、今、皆「マスク、マスク」って言うんですけど、しなければいけないっていう人もいるかもしれないけれども、ではコロナ前ってどれだけの人、児童にしろ大人にしろマスクしていたんだらうってことは、ちょっと顧みてもらって、だったらこれで、しなくていいじゃないっていうふうになっていくといいなと思います。</p> <p>「自由」ってとても親切に思えるんですけども、どうなんでしょうか。なかなか人の目を見たり、周りを気にする人も多い世の中で、どこかが「こうしましょう」ってことを言わないと、その道にはなかなか進めないのではないかなっていう気がします。まずは大人がこうしよう。家庭でも、私が出会ったお母さんたちはもう外しています。もうすぐ外すことになるので、子どもに「外せ外せ」って言っても自分がしていたらと思うので、家の中では一切していませんという家庭がちらほら見えてくるようになりました。だから、病状だったりとか、その子その子の適応もあるかもしれませんが、大筋のところ、できればどこかが「外しましょう」って、ちょっと背中押してくれる場所がないと、なかなか実行は難しいのかなと思います。私は外すほうで賛成したいなと思っています。</p>
原市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、皆さんからご意見いただきました。「ちょっと言い洩らしたわ」、「想いがまだあるわ」という方がお見えになれば。</p> <p>いいですか。</p> <p>では、滝教育長。</p>
滝教育長	<p>今、教育委員の皆さんのお話をきいて、ほぼ皆さん同じ考えだなんてことを思いました。</p> <p>私も7月、昨年7月の末でありますけれども、外ではしょっちゅうマスクをしていました。家庭内ではマスクを外していました。私がまずコロナにかかりました。すぐ翌日に女房が熱が出て、息子にも熱が出て、マスクをしていてもかかる。マスクをしていないと当然だけども移るだけども、早く移っておいてよかったのかなと半分思っているんですけども。確かにマスクの効果があるとおっしゃる方も見れば、マスクの効果って定かじゃないよとか、これもなかなか難しい問題です。</p> <p>今、かつてのコロナが流行りかけた状況と比べると、感染者の数がうんと増えているんだけど、死亡される方っていうのは随分減ってきてるなと思うんです。</p> <p>株がどんどん入れ替わってどうこうってことはあるんですけど、今、学校の中でも一時はもう何十人という陽性の報告があったんですが、今は10名前後のところなんです。</p> <p>5月8日がひとつの区切りで、2類から5類にということなんですけど、その時点でどうこうではなくて、私は今、こういう状況になれば、そんなにピリピリしなくても、マスクを外したい子は外してもいいのではないかって思っているんです。</p> <p>現在、学校でも、登下校と体育の授業については「原則、マスクを外しましょう」、ただ、「感染が心配で、マスクをしたい子はしてもいいんだよ」という方策をとっているにもかかわらず、ほとんどの子どもたちが、登下校はマスクをつけたまま</p>

	<p>なんです。これは何でかというのと、外を歩いている大人が皆、つけてるからだと思うんです。だから例えば、今日、この総合教育会議でも、先ほど市長とか、皆外しても、ここの場でうつるなんてことはありえませんよね。でも、なんか今までできてきているからしている状況。</p> <p>卒業式のマスク着用については、実は、先日の校長会で少し意見を聞いております。ほとんどの校長はやっぱりマスクなしでやれたらやりたい、という考えを持っています。私も、だったらもうマスクなしでやれ、というふうに投げかけてはありますが、「じゃあ犬山の学校現場として、こういきましょう」とはまだ決めてない状況です。ですから、今の委員の皆さんのご意見を聞いて、もう卒業式を外してやろうか。先生たちはまず外すんだよ、子どもたちも外したら、保護者も外せばいいじゃん。でも、心配な子はつけることを認めてやろうね。それでどうか。ただし、その他の感染予防対策は、例えば換気をするとか、窓を開ける、手指消毒をするとかということ、引き続きやっておいて、マスクの着用についてはそんな対応でどうかというふうに、思っているところです。今、皆さんのご意見を聞き、多分、最後に市長がお考えを述べられるものですから、もしそういうことで意思疎通ができれば、学校現場には、卒業式の対応をこうやっていきたいと思いますということ、共通理解を図っていききたいなということを思っています。</p> <p>以上です。</p>
原市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>さっき20分話したけれど、このマスクしながら話すってめちゃくちゃしんどいです。やっぱ子どもたちも同じ思いをしながら、授業、体育、登下校している子たちって絶対いると思うんです。だから先ほどから出ているように、心のマスクもあるし、大人が外すことによって、子どもたちも外していいんだよ、なんていうところを見せることが非常に大事なんだと、本当に改めて皆さんのお話を聞いて思いました。今日、ここで皆さんに私の想いを伝えようと思って臨みました。それは、皆さんの想いと同じであります。教育長も言ってくださいました。犬山として、卒業式はマスクの着用を原則求めない、という犬山市としての姿勢、指針、方針を示したいというふうに思っています。ただし、体調が悪い子は、当然、卒業式には出席しないでください。当日の換気等の感染対策は徹底してやっていく。さらに合唱もマスクなし、あります。ただ、距離をとる等の工夫などは行うこと、さらに在校生と保護者の皆さん、しゃべらないのであれば、マスクつけなくて大丈夫です。そうした方針を示しつつ、大事なところは、まだ中には外せない子もいますので、外せない子については、マスク着用のまま、卒業式に参加をさせていただきたいということ、最後、子どもたち、そして親さんも含めて皆、表情を見て確認をして、卒業式送ってあげたいという想いがありますので、犬山市の方針として、マスクは原則外していいという方向性を明確に示していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
教育委員	はい。
原市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、そのように心強いご意見をいただきながら、そうした方向に進めるのは、本当にうれしく思っています。その方針は、すぐにでも示していきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。</p> <p>こういう話っていいですね。子どもたちのために、みんなでめちゃくちゃ言い合えるのは、本当にいい場だと思います。こうしたやり方をずっと重ねながら、また皆さんと一緒に議論を続けていきたいと思っておりますので、よろしく願いをい</p>

	<p>たします。改めて、皆さんには様々なご意見いただいたことに心から感謝申し上げます。また引き続きご指導賜りますよう、よろしくお願いをいたします。</p> <p>それでは議題については以上であります。</p> <p>続いて、自由討議となっていますが、何か提案される討議がございましたらお願いをいたします。</p> <p>よろしゅうございますか。</p> <p>それでは自由討議はここまでとさせていただきます。</p> <p>また教育長、さっきも皆さんから出たように学校の先生もここから指針を表明するものだから、学校の先生も外せるところはどんどん外して、子どもたちに見せるようなこの1ヶ月弱になりますけど、それによって子どもたちがマスクしなくていいんだねっていう、心の想いもそうですが、バリア少しずつ外していってください。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
司会 (井出企画広報課長)	はい。それでは次の「5. その他」につきまして、事務局から説明いたします。
事務局 小枝	はい。今後のスケジュールです。今年度予定していた総合教育会議はこれで終了となります。来年度の会議につきましては、4月以降に日程調整をまず始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
司会 (井出企画広報課長)	<p>それではこれをもちまして、令和4年度第3回犬山市総合教育会議を閉会とさせていただきます。</p> <p>皆様、本日はありがとうございました。</p>
全員	ありがとうございました。
< 閉 会 >	